

科目分類	教職科目	対象学年	1・2・3・4
授業科目	体育実技Ⅰ	学期	前期授業
担当教員	非常勤講師 齋藤重徳	選択／必修	
科目コード	H061010	授業形態	実技
		単位数	1

授業の概要	<p>この授業では、自己の体力・運動能力を理解し、健康の維持・増進に必要な運動の理解と実践を図ると同時に、各種運動やスポーツの実践に必要な基礎知識と技術を習得することをねらいとする。また、すべての人々が生涯にわたって運動やスポーツに親しんでいくための基礎を養うものである。とりわけ、運動やスポーツは人生をより豊かに充実させるためにも大いに役立つものであり、すべての人々が生涯にわたって運動やスポーツに親しむ意義は大きい。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の体力や運動能力を理解し、処方的実践ができる。(身体認識) 2. 主体的なグループ活動を通して、交流関係を創出できる。(交流関係) 3. 各種運動の基礎知識と技能を身に付けることができる。(技術習得)
-------	--

授業の内容	<p>第1週 オリエンテーション、ストレッチング、軽体操</p> <p>第2週 インディアカ:基礎知識と基本技能の習得・ゲーム</p> <p>第3週 バレーボール:基礎知識と基本技能(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス)の習得</p> <p>第4週 バレーボール:基本技能(アタック・サーブ)の習得</p> <p>第5週 バレーボール:基本技能(サーブレシーブとトス)の習得</p> <p>第6週 バレーボール:基本技能(レシーブ・トス・アタックの連携)の習得</p> <p>第7週 バレーボール:総括(ゲーム)</p> <p>第8週 ソフトボール:基礎知識と基本技能の習得</p> <p>第9週 ソフトボール:基本技能(ピッチング)の習得</p> <p>第10週 ソフトボール:基本技能(バッティング)の習得</p> <p>第11週 ソフトボール:総括(ゲーム)</p> <p>第12週 テニス:基礎知識と基本技能(フォアハンド・バックハンド)の習得</p> <p>第13週 テニス:基本技能(サーブ)の習得</p> <p>第14週 テニス:基本技能(ボレー)の習得</p> <p>第15週 テニス:総括(ゲーム)</p> <p>第16週 実技試験</p>
-------	---

テキスト	特に指定しません
------	----------

参考文献	適宜指示します
------	---------

評価方法	<p>履修条件:受講生は運動するのに相応しい服装(トレーニングウェア)を準備すること。 運動靴は、屋内内容と屋外用の2種類を準備すること。</p> <p>評価方法:出席率が3分の2に満たない者に対しては成績評価を与えない。 出席点 60%、実技試験 30%、自己評価 10%</p>
------	---

その他	<p>※1</p> <p>※2</p>
-----	---------------------

科目分類	教職科目	対象学年	1・2・3・4
授業科目	体育実技Ⅱ	学期	後期授業
担当教員	非常勤講師 齋藤重徳	選択／必修	
科目コード	H061020	授業形態	実技
		単位数	1

授業の概要	<p>この授業では、自己の体力・運動能力を理解し、健康の維持・増進に必要な運動の理解と実践を図ると同時に、各種運動やスポーツの実践に必要な基礎知識と技術を習得することをねらいとする。また、すべての人々が生涯にわたって運動やスポーツに親しんでいくための基礎を養うものである。とりわけ、運動やスポーツは人生をより豊かに充実させるためにも大いに役立つものであり、すべての人々が生涯にわたって運動やスポーツに親しむ意義は大きい。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の体力や運動能力を理解し、処方的実践ができる。(身体認識) 2. 主体的なグループ活動を通して、交流関係を創出できる。(交流関係) 3. 各種運動の基礎知識と技能を身に付けることができる。(技術習得)
-------	--

授業の内容	<p>第1週 オリエンテーション、ストレッチング、長縄跳び</p> <p>第2週 サッカー:基礎知識と基本技能の習得</p> <p>第3週 サッカー:基本技能(正面からのボールに対するシュート)の習得</p> <p>第4週 サッカー:基本技能(左右横からのボールに対するシュート)の習得</p> <p>第5週 サッカー:基本技能(3人によるパスゲーム)の習得</p> <p>第6週 サッカー:総括(ゲーム)</p> <p>第7週 バasketボール:基礎知識と基本技能の習得</p> <p>第8週 Basketball:基本技能(ドリブルシュート)の習得</p> <p>第9週 Basketball:基本技能(ランニングシュート)の習得</p> <p>第10週 Basketball:基本技能(3:2の攻防)の習得</p> <p>第11週 Basketball:総括(ゲーム)</p> <p>第12週 バドミントン:基礎知識と基本技能の習得</p> <p>第13週 バドミントン:基本技能(サーブ・スマッシュ)の習得</p> <p>シングルのゲーム</p> <p>第14週 バドミントン:基本技能(サーブ・スマッシュ)の習得</p> <p>ダブルスのゲーム</p> <p>第15週 バドミントン:総括(ゲーム)</p> <p>第16週 実技試験</p>
-------	--

テキスト	特に指定しません
------	----------

参考文献	適宜指示します
------	---------

評価方法	<p>履修条件:受講生は運動するのに相応しい服装(トレーニングウェア)を準備すること。 運動靴は、屋内内容と屋外用の2種類を準備すること。</p> <p>評価方法:出席率が3分の2に満たない者に対しては成績評価を与えない。 出席点 60%、実技試験 30%、自己評価 10%</p>
------	---

その他	<p>※1</p> <p>※2</p>
-----	---------------------

科目分類	教職科目	対象学年	2・3・4
授業科目	教職入門	学期	後期授業
担当教員	非常勤講師 塩津 英樹	選択／必修	
科目コード	H061030	授業形態	講義
		単位数	2

授業の概要 現代の学校及び教員を取り巻く状況を踏まえ、「教職の意義」、「教員の役割」、「教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む)」について講義する。また、「進路選択に資する各種機会の提供等」を行うことで、学生が、主体的に、自らの進路を選択していくことができるようにする。

【到達目標】

- (1) 教職の意義及び教員の役割を自己の言葉で説明できる。
- (2) 教員の職務内容について自己の言葉で説明できる。
- (3) 教職への進路選択に際して、主体的に判断することができる。

授業の内容 第1回: 教職の意義(1)―教職とは・教職を志す―
 第2回: 教職の意義(2)―教師像の歴史の変遷―
 第3回: 学校及び教員を取り巻く状況
 第4回: 教員の養成と採用 ―教職課程・教育実習・教員採用試験―
 第5回: 教員の服務と身分保障
 第6回: 教員の研修制度 ―初任者研修・十年経験者研修・その他の研修―
 第7回: 教員の役割と求められる資質能力 ―教師の専門性について―
 第8回: 教師の仕事(1)―教科指導(教材研究・授業・学習評価)―
 第9回: 教師の仕事(2)―学級経営・生徒指導―
 第10回: 教師の仕事(3)―進路指導・キャリア教育―
 第11回: 教師の仕事(4)―部活動―
 第12回: 学校教育の今日的課題 ―いじめ・不登校等―
 第13回: 新しい時代の教員の役割
 第14回: 教職への進路選択
 第15回: 全体のまとめ
 第16回: 定期試験

テキスト 特に指定はしない。
適宜、資料を配布する。

参考文献 授業のなかで適宜紹介する。

評価方法 授業への出席(10%)、レポート(30%)、期末試験(60%)などに基づいて総合的に評価する。

その他 遅刻、私語等がないようにしてください。
※1
※2

科目分類	教職科目	対象学年	2・3・4
授業科目	教育学	学期	前期集中
担当教員	非常勤講師 深見俊崇	選択／必修	
科目コード	H061040	授業形態	講義
		単位数	2

授業の概要 本講義は、教育に関する基本的事項について幅広く学習し、学校を中心とする教育のあり方とその課題、社会との関係等の基礎的知見を身につけることを目的とする。とりわけ、社会・文化的背景、歴史的経緯を踏まえつつ、学校を取り巻く現代の状況を捉えることを主眼としている。
本講義を通じて、教師の職責や資質、子どもの最善の利益とは何かについて受講生と共に考えていく。

【到達目標】

- ・学校を巡る近年の変化について歴史的経緯を踏まえて説明できる。
- ・学校教育の中心となる授業の構造やあり方について説明できる。
- ・子どもの権利や現代的課題を踏まえた教育のあり方について説明できる。

授業の内容 第1回 オリエンテーション、教育とは
 第2回 学校とは―西洋における展開
 第3回 学校とは―江戸時代～明治時代
 第4回 学校とは―大正時代～戦後
 第5回 学校とは―現代までの変遷
 第6回 教師の仕事―実践から考える
 第7回 学力の捉え方
 第8回 授業と学習①
 第9回 授業と学習②
 第10回 教師の仕事―実践から考える
 第11回 子どもと大人
 第12回 子どもの権利と教育
 第13回 学校を問い直す①
 第14回 学校を問い直す②
 第15回 まとめ

テキスト 特に指定しない(適宜プリント資料を配布する)

参考文献 田嶋 一・中野 新之祐・福田 須美子・狩野 浩二『やさしい教育原理』新版補訂版, 有斐閣アルマ, 2011年

評価方法 平常点30%, 最終試験 70%

その他 ※1
※2

科目分類	教職科目	対象学年	2・3・4
授業科目	教育心理学	学期	後期授業
担当教員	川中 淳子	選択／必修	選択必修
科目コード	H061050	授業形態	単位数 2

授業の概要	<p>【授業の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育心理学に関する基本的知識を身につける。 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表的な先行研究や基本的な概念について、説明することができる。 <p>【授業内容】</p> <p>教育心理学の中でも、特に、評価、発達、人格理解、発達障害、スクールカウンセリングを中心に授業を進める。理解を深めるために、グループワークや心理検査の実践も取り入れる。受講生は、本授業で、それらの教育心理学的な知識を身につけ、その知識をどのように教育現場に生かしていくのかを考える。</p> <p>学内での講義だけでなく、教職に関する全ての学びを深めるために、一泊二日で教職合宿を予定している。この合宿では、現場の教員の話の聞いたり、模擬授業の検討を行いたい。</p>
-------	---

授業の内容	<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 身体の発達 言葉の発達</p> <p>第3回 発達理論</p> <p>第4回 発達障害</p> <p>第5回 学習評価</p> <p>第6回 教職合宿準備</p> <p>第7回 教職合宿 体験活動</p> <p>第8回 教職合宿 公立学校教員からの講義</p> <p>第9回 教職合宿 模擬授業体験</p> <p>第10回 人格理解</p> <p>第11回 心理検査実施</p> <p>第12回 心理検査振り返り</p> <p>第13回 適応</p> <p>第14回 スクールカウンセリング</p> <p>第15回 まとめ</p>
-------	---

テキスト	未定。
------	-----

参考文献	高等学校の教科書(英語、公民)
------	-----------------

評価方法	出席が70パーセント以下の者には成績評価を与えない。 中間レポート10パーセント、期末レポート90パーセント。
------	--

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・教職合宿には必ず参加すること。 ・教員免許を取得できるように、教職課程の仲間と切磋琢磨してください。 <p>※1</p> <p>※2</p>
-----	--

科目分類	教職科目	対象学年	2・3・4
授業科目	教育課程編成論	学期	前期授業
担当教員	非常勤講師 伊藤博之	選択／必修	
科目コード	H061060	授業形態	講義 単位数 2

授業の概要	<p>わが国の学校教育課程は、度重なる学習指導要領改訂を経て、現在では「学校に基礎を置く教育課程開発」が求められ、教師一人ひとりに自分の所属する学校にマッチした教育課程を作り上げていく力が必要とされています。</p> <p>そこで、本科目前半では、まず「そもそも教育課程とは何か」から読み起こし、見えにくいところで教育課程がいかに学校教育を支えているか、その重要性を押さえます。次に、そのように重要な教育課程を教師一人ひとりが作り上げていく上で考慮しなければならない「構成要件」はどのようなものがあるか、続いでそれらの諸要件をどのような原則にもとづいて考慮して教育課程を作っていくかの概要を習得します。さらに、作り上げた教育課程をよりよいものに改善していくために必要な教育課程評価の在り方を習得します。本科目の後半では、近代学校制度移行前後から2017年版学習指導要領公示に至る教育課程の「公の歴史」をひもとくことで、現在の教師に求められている教育課程の有り様について理解します。この際、各学習指導要領の特徴などを単体で丸暗記するのではなく、そうした学習指導要領が出されるに至った背景や必然性等とつなげて理解することが期待されています。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程(編成)に関する基礎知識およびその関連性を自己の言葉で説明できる。(知識の習得) ・教育課程編成を巡る問題について批判的に思考・表現することができる。(批判的思考力・表現力) ・主体的、協働的に授業に参加できる。(関心・意欲・態度)
-------	--

授業の内容	<p>教科書『新しい時代の教育課程』《第3版》の内容(部分)に沿って論究します。(教科書に記載されている順番とは異なります。)</p> <p>日程と当日のトピックは以下の通りとします。</p> <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション&今なぜ教育課程(カリキュラム)か 2 教育課程とは何か 3 教育課程をどう編成するか(1) 編成主体は誰か 4 教育課程をどう編成するか(2) 教育課程編成の構成要件は何か(1) 5 教育課程をどう編成するか(3) 教育課程編成の構成要件は何か(2) 6 教育課程をどう編成するか(4) 教育課程編成の構成要件は何か(3) 7 教育課程をどう編成するか(5) 教育課程編成の基本原則は何か 8 教育課程をどう評価するか(1) 「教育的に評価する」とはということか 9 教育課程をどう評価するか(2) 「相対評価」から「いわゆる絶対評価」へ 10 現代日本の教育課程の歩み(1) 江戸末期～明治・大正期 11 現代日本の教育課程の歩み(2) 昭和戦前・戦中期～戦後新教育期 12 現代日本の教育課程の歩み(3) 高度経済成長期(1) 13 現代日本の教育課程の歩み(4) 高度経済成長期(2) 14 現代日本の教育課程の歩み(5) 低成長への移行期 15 現代日本の教育課程の歩み(6) 「ゆとり教育」展開期 & まとめ
-------	--

テキスト	田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵著『新しい時代の教育課程』《第3版》有斐閣、2011年
------	---

参考文献	<p>天野正輝編『教育課程重要用語300の基礎知識』明治図書、1999年。</p> <p>柴田義松他編著『近現代教育史』学文社、2000年。</p> <p>文部科学省『学習指導要領』2008年、2017年。</p> <p>島根県教育委員会「第2期しまね教育ビジョン21」2014年。</p>
------	---

評価方法	毎授業後の振り返り(5点×15回)、総括レポート(25点)により評価します。
------	--

ただし、自己紹介票、総括レポートの両方とも提出がない場合、または5回以上の実質的欠席の場合は0点とします。

その他

自分が「主体的」に学んでいるか、「協働的」に学んでいるか、授業に「参加」できているか常に自省しつつ受講されることを期待しています。

※1
※2

科目分類	教職科目	対象学年	2・3・4
授業科目	公民科教育法 I	学期	後期授業
担当教員	別枝 行夫	選択/必修	
科目コード	H061070	授業形態	講義
		単位数	2

授業の概要

<教職免許取得を目指す諸君へ>

- * 本「公民科教育法— I」第1回授業に必ず出席すること。欠席した場合単位取得を保証しない。
- * 「公民科教育法— II」を履修する学生（主に3年生を想定）もこの授業を見学することを推奨する。

社会科系の教員免許は①「高校地歴」②「高校公民」③「中学社会」の3種類である。本学で取得できる免許は②「高校公民」である。①②③のどれも取得可能な大学は教育学部を持っているか、よほど規模の大きい大学だけである。

②しか取得できないことの弱点は、教員採用試験を受ける際の制約—例えば東京都、横浜市などでは高校教員試験の応募条件に③免許も所持することが挙げられ、他の都道府県でもそれが「望ましい」と記載されている例がある。さらに一部の県や一部私立で①②を両方持っていることを条件にしているケースもある。

②で教えられる科目は「現代社会」、「倫理」、「政治経済」の3教科である。私立高等学校では「日本史」、「世界史」などと科目指定して採用試験を行うケースも多く、「倫理」、「政治経済」といった採用は多くない。

本学で②を取ろうと考えている諸君は、上記の事情を良く理解しておく必要がある。本授業の第1回ではこの点を詳しく解説する。教職を履修する学生は一般学生に比べ、負担が非常に大きいので、単に「何か資格を持っていたい」という程度の発想なら教職の履修は勧められない。

<到達目標> = 言うまでもなく実際に公民科教員になることである。しかし、仮に教員以外の就職をしても社会人として獲得すべき常識を学べることは大きなプラスになるだろう。

なお、第2セッション以下は、履修学生7～8名を想定しており人数により変わってくる。

<授業内容>

下記授業計画を参照。本科目は主に2年生の履修を想定しているが、2年生にも模擬授業（ただし30分程度の短縮版）を経験してもらう。

* 第1セッション（授業担当教官の時間）＝授業時間2回程度

- (1) 教師になること：「高校公民」免許と社会科教員の関係 (2) 日本の小中高生を取り巻く環境
- (3) 家庭教育と学校教育 (4) 社会科（歴史科・公民科）教育の意味

* 第2セッション（履修学生＝諸君＝の時間）＝4回程度。学生が準備してきて報告～全員討論

- (1) 現代社会をどう見ているか (2) 中学・高校生とどう向き合うか (3) 公民科で生徒達と何を学ぶのか
- (4) 模擬授業で取り上げる単元 (5) その授業を通して何を伝えるのか

* 第3セッション（模擬授業に向けて）＝4回程度。2回目は各自が作成した教案を皆で検討する

- (1) 授業の目標 (2) 授業設計 (3) 教案（授業指導案）の作成

* 第4セッション（模擬授業）。毎回2名ずつ4回。授業後全員でコメントする。

授業担当者は教案の練り直しを自宅でする。間で毎回2名ずつ模擬授業を実施する。

* 最終回＝総括

* * 第1回授業はオリエンテーションを兼ねている。必ず出席すること。

授業の内容

第1回 * 第1セッション（授業担当教官の時間）－1

- (1) 教師になること：「高校公民」免許と社会科教員の関係

第2回 * 第1セッション－2

- (2) 日本の小中高生を取り巻く環境 (3) 家庭教育と学校教育 (4) 社会科（歴史科・公民科）教育の意味

第3回 * 第2セッション（履修学生＝諸君＝の時間）－1

- (1) 現代社会をどう見ているか

第4回 * 第2セッション－2

	<p>* 第2セッションー2 (2) 中学・高校生とどう向き合うか (3) 公民科で生徒達と何を学ぶのか 第5回 * 第2セッションー3 (4) 模擬授業で取り上げる単元 第6回 * 第2セッションー4 (5) その授業を通して何を伝えるのか 第7回 * 第3セッション(模擬授業に向けて)ー1 (1) 授業の目標 (2) 授業設計 その1 第8回 * 第3セッションー2 (1) 授業の目標 (2) 授業設計 その2 第9回 * 第3セッションー3 教案(授業指導案)の作成 その1 第10回 * 第3セッションー4 教案(授業指導案)の作成 その2 第11回 * 第4セッション(模擬授業)ー1 第12回 * 第4セッション(模擬授業)ー2 第13回 * 第4セッション(模擬授業)ー3 第14回 * 第4セッション(模擬授業)ー4 第15回 最終回:総括</p>
テキスト	特に指定しない。必要な資料は当方でコピーして配布する。なお、本科目を履修する学生は毎日必ず新聞(ネット配信のものでも良いが、平日は極力メディアセンターで新聞本紙を)を読むことを義務とする。
参考文献	必要に応じて授業時に指示する。
評価方法	出席20%、授業参加60%、模擬授業20%を合計して評価する。事前連絡のない欠席は大幅に減点する。
その他	<p>※1 ※2</p>

科目分類	教職科目	対象学年	2・3・4
授業科目	英語科教育法 I	学期	後期授業
担当教員	ケイン エレナ Eleanor Kane	選択/必修	
科目コード	H061080	授業形態	講義
		単位数	2

授業の概要	<p>In this course, students who aim to become English teachers will learn basic principles of language teaching and learning, and also study the skills needed to become effective teachers. Students will learn about language acquisition theories and the approaches they influenced, in particular focusing on current good practice in the language classroom.</p> <p>This class is taught in simple English. Students must prepare for class by reading their textbook or supplementary reading every week. Weekly homework will take about two hours per week. Late homework will not be graded.</p> <p>到達目標: Students can explain the goals of high school English classes (知識) Students can explain major theories of second language acquisition (知識) Students can explain major approaches to language teaching (知識) Students can apply their knowledge in the classroom to teach four skills (技能) Students can positively participate in responding to and evaluating their classmates' micro-teaching (態度)</p>
-------	--

授業の内容	<p>第1回 What makes a good English teacher? Goals of English education in Japan. 序章・第1章・第5章 第2回 What is a good language learner? Learner strategies. 第2章・第4章 第3回 Communicative competence. First and second language acquisition theory 第3章 第4回 Approaches: Older approaches (Grammar-translation, direct, oral, audiolingual) and CLT (CLIL and task-based) 第3章 第5回 Approaches continued. Lesson planning for micro-teaching. How to structure a lesson 第13章・第15章 第6回 Listening (1)Key concepts: types of listening (specific, gist, inference, enjoyment). Top-down and bottom-up processing. 第6章 第7回 Listening (2) Task variety. Sound changes. Center Test Listening skills. 第7章 第8回 Speaking (1) How to use drills and dictation. 第8章 第9回 Speaking (2) How to teach dialogues. 第8章 第10回 Reading (1) Skimming, scanning, detailed comprehension, ER. 第9章 第11回 Reading (2) Reading tasks. 第9章 第12回 How to teach vocabulary. 第12章 第13回 Writing (1) Parts of a writing lesson. Process and product syllabuses. 第10章 第14回 Writing (2)Writing tasks 第11章 第15回 Lesson planning for your final report. How to do schema activation. 第13章・第15章</p>
-------	---

テキスト	JACET教育問題研究会編(2012)『英語科教育の基礎と実践』三修社
参考文献	文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』開隆堂
評価方法	<p>Weekly homework : 65% This must be submitted at the start of class. Late work will not be accepted. Final paper (lesson planning): 20% Micro teaching: 15% Students who are absent five times or more cannot get credit for this course. Students must do</p>

micro teaching and submit a final paper in order to get credit for this course. Students must submit a teaching plan for micro teaching to the teacher at least one working day before their class. Students who attend English events and pass external exams such as STEP can get bonus points up to a total of 10 points.

その他

Office Hour (Autumn): Please check at my office door, or by appointment el-kane@u-shimane.ac.jp Room 327. My office is very far away. It's a good idea to call and check that I am in (Tel: 24-2276).
If possible, we will also visit local schools and observe their English lessons.
※1
※2

科目分類	教職科目	対象学年	3・4
授業科目	公民科教育法Ⅱ	学期	前期授業
担当教員	別枝 行夫	選択／必修	選択
科目コード	H061090	授業形態	講義
		単位数	2

授業の概要

<この科目の内容>「公民科教育法Ⅰ」(履修者は主に2年生と想定)を既に履修している前提で、実際の授業に接近するための訓練を行う。接近の順序として、①社会人＝市民＝意識の涵養 ②国内外の社会でいま何が起きているかに常に関心を払うこと ③教員になることの意味を再確認すること・・・を挙げる。その上で実際の学習と訓練に入る。
<到達目標>＝言うまでもなく実際に公民科教員になることである。しかし、仮に教員以外の就職をするとしても社会人として獲得すべき常識を備えることが求められる。
なお、第2セッション以下は、履修学生の人数により変化する。ここでは履修学生7～8名(昨年度実績)を想定している。本年度の「公民科教育法Ⅰ」の受講者もこの授業を参観することを推奨する。
<授業内容>
* 第1セッション(授業担当教官の時間)＝授業時間2回程度
(1)国内外の社会で今何が起きているか (2)日本の小中高生を取り巻く環境 (3)家庭教育と学校教育
(4)社会科(歴史科・公民科)教育の意味
* 第2セッション(履修学生＝諸君＝の時間)＝2回程度。学生が準備してきた報告～全員討論
(1)現代社会をどう見ているか (2)中学・高校生とどう向き合うか (3)公民科で生徒達と何を学ぶのか
(4)模擬授業で取り上げる単元 (5)その授業を通して何を伝えるのか
* 第3セッション(模擬授業に向けて)＝2回程度。2回目は各自が作成した教案を皆で検討する
(1)授業の目標 (2)授業設計 (3)教案(授業指導案)の作成
* 第4セッション(模擬授業第1ラウンド)。毎回2名ずつ。授業後全員でコメントする。
授業担当者は教案の練り直しを自宅ですてくる。
* 第5セッション(模擬授業第2ラウンド)＝4回
第1ラウンドの授業を練り直し、1人40分の持ち時間で毎回2名ずつ模擬授業を実施する。
* 最終回＝総括

* * 第1回授業はオリエンテーションを兼ねている。これを欠席するとその後の授業運営に大きく支障を来すので必ず出席すること。

授業の内容

第1回 * 第1セッション(授業担当教官の時間)－1
(1)国内外の社会で今何が起きているか
(2)日本の小中高生を取り巻く環境
第2回 * 第1セッション(授業担当教官の時間)－2
(3)家庭教育と学校教育
(4)社会科(歴史科・公民科)教育の意味
第3回 * 第2セッション(履修学生＝諸君＝の時間)－1
(1)現代社会をどう見ているか (2)中学・高校生とどう向き合うか (3)公民科で生徒達と何を学ぶのか
(4)模擬授業で取り上げる単元 (5)その授業を通して何を伝えるのか
第4回 * 第2セッション(履修学生＝諸君＝の時間)－2
(1)現代社会をどう見ているか (2)中学・高校生とどう向き合うか (3)公民科で生徒達と何を学ぶのか
(4)模擬授業で取り上げる単元 (5)その授業を通して何を伝えるのか
第5回 * 第3セッション(模擬授業に向けて)－1
(1)授業の目標 (2)授業設計 (3)教案(授業指導案)の作成
第6回 * 第3セッション(模擬授業に向けて)－2
2回目は各自が作成した教案を皆で検討する
第7回 * 第4セッション(模擬授業第1ラウンド－1)(毎回2名)

授業担当者は教案の練り直しを自宅でする。授業後全員でコメントする。
 第8回 * 第4セッションー2
 第9回 * 第4セッションー3
 第10回 * 第4セッションー4
 第11回 * 第5セッション(模擬授業第2ラウンド)ー1 (毎回2名)
 授業担当者は教案の練り直しを自宅でする。授業後全員でコメントする。
 第12回 * 第5セッションー2
 第13回 * 第5セッションー3
 第14回 * 第5セッションー4
 第15回 * 総括 * 教員からのコメント

テキスト テキストは特に指定しない。毎回、必要に応じてプリントを配布する。参考文献も授業時に提示する。なお、本授業履修者は毎日必ず新聞を(ネット配信のものでも良いが平日は極力メディアセンター等で新聞本紙を)読むことを義務づける。

参考文献 必要に応じて授業時に指示する。

評価方法 出席20%、毎回の授業への参加度30%、模擬授業2回50%以上を合計して評価する。やむを得ないと認められた以外の授業欠席があれば大幅に減点する。

その他
 ※1
 ※2

科目分類	教職科目	対象学年	3・4
授業科目	英語科教育法Ⅱ	学期	前期授業
担当教員	三浦 邦彦	選択/必修	選択
科目コード	H061110	授業形態	講義
		単位数	2

授業の概要

この講座の目的は、高等学校の英語教員としての役割を理解し、英語教員として必要な基本的知識及び指導技術を学び、実際に高等学校で英語授業を行える基礎を養うことを目的とする。この講座では、小学校から高等学校までの英語授業を視聴し授業を見る目を養う。実践的な英語教育にフォーカスし、高等学校の英語授業における指導技術について体験しながら学んでいく。授業は、講義・実際に活動の体験・グループによるディスカッションという流れで行われる。学習指導要領の概説、絶対評価を取り入れた英語学習指導案の作成方法及び模擬授業を行っていく。今日、求められている実践的英語教育が行える英語教員を養成できるようにする。

【到達目標】

- ・高等学校英語教員として教職の意義及び教員としての役割を十分理解できる。
- ・小学校から高校までの英語授業観察を通して授業を見る目を養い、授業における各活動の目的と指導・評価との関連について理解することができる。
- ・絶対評価を取り入れた高等学校における英語学習指導案を作成することができる。
- ・高等学校の英語教員としての基本的知識及び指導技術を学び模擬授業を行うことができる。

授業の内容

第1回 第1回 高等学校英語教員としての教職の意義と役割
 社会の著しい変化に伴い学校教育の場においても多くの変化がみられる時代となっている。そのような変化の激しい学校教育現場における高等学校英語教員としての教職の意義と役割について講義を行い受講者とともに今日望まれる教師像について異なる視点から焦点を当てディスカッションを通して高等学校英語教員としての教職の意義と役割について学び、共有していく。

第2回 第2回 授業観察① 小学校授業、小学校英語学習指導要領概説
 小学校英語学習指導要領の概説を行い、現在求められている小学校英語教育について学ぶ。授業記録ビデオを視聴し最新の小学校英語教育について理解を深める。受講者間でディスカッションを通し小学校英語授業についてのフィードバックを共有する。

第3回 第3回 授業観察② 中学校授業(1)、中学校外国語学習指導要領概説
 中学校外国語学習指導要領の概説を行い、現在求められている中学校英語教育について学ぶ。授業記録ビデオを視聴し最新の中学校英語教育について理解を深める。受講者間でディスカッションを通し中学校英語授業についてのフィードバックを共有する。

第4回 第4回 授業観察③ 中学校授業(2)、Oral Interactionから学ぶ、発表(1)
 「英語の授業は英語で」が求められている。中学校におけるOral Interactionを用いた授業記録ビデオを視聴し、Oral Interactionの実施上の留意点・工夫・実践までワークショップ形式に学び体験する。受講者は中学校の英語教科書を用いて板書計画及び計画的なTeacher Talkの使用によるOral Interactionを作成し発表する。受講者間でディスカッションを通しOral Interactionについてのフィードバックを共有する。

第5回 第5回 授業観察④ 高等学校授業(1)、高等学校外国語学習指導要領概説
 高等学校外国語学習指導要領の概説を行い、現在求められている高等学校英語教育について学ぶ。授業記録ビデオを視聴し最新の高等学校英語教育について理解を深める。受講者間でディスカッションを通し高等学校英語授業についてのフィードバックを共有する。

第6回 第6回 授業観察⑤ 高等学校授業(2)、Oral Interactionから学ぶ、発表(2)
 「英語の授業は英語で」が求められている。高等学校におけるOral Interactionを用いた授業記録ビデオを視聴し、Oral interactionの実施上の留意点・工夫・実践までワークショップ形式により学び体験する。受講者は高等学校の英語教科書を用いて板書計画及び計画的なTeacher Talkの使用によるOral Interactionを作成し発表する。受講者間でディスカッションを通しOral Interactionに

	<p>についてのフィードバックを共有する。</p> <p>第7回 第7回 高等学校英語授業指導技術(1)、授業開始5分間のwarm up活動、発表(3) 英語授業開始5分間のウォームアップ活動としてどのような活動が可能か、英語による様々なウォームアップ活動をワークショップ形式で学び、受講者によるディスカッションを通して効果的なウォームアップ活動について共有する。受講者は英語による5分間のウォームアップ活動を作成し発表し、受講者間でディスカッションを通してのフィードバックを共有する。</p> <p>第8回 第8回 高等学校英語授業指導技術(2)、flash card、段階を追ったReading指導、発表(4) 「英語学特別演習I」の授業と関連づけながらコーパスを活用した効果的な単語学習、フラッシュカードの使用法、段階を追ったリーディング指導についてワークショップ形式で学び体験する。受講者は高等学校英語教科書を用いてリーディング教材作成を行い発表する。受講者間でリーディング教材についてディスカッションを通してのフィードバックを共有する。</p> <p>第9回 第9回 高等学校英語授業指導技術(3)、語彙指導の工夫、Pair Work、発表(5) 英語授業におけるペアワークの活用について目的・効用・留意点・実践についてワークショップ形式で学び体験する。受講者は高等学校の英語教科書を用いてペアワークの教材作成を行い発表する。受講者間でディスカッションを通してのフィードバックを共有する。</p> <p>第10回 第10回 高等学校英語授業指導技術(4)、文法指導の工夫、Group Work、発表(6) 英語授業におけるグループワークの活用について目的・効用・留意点・実践についてワークショップ形式で学び体験する。受講者は高等学校の英語教科書を用いてグループワークの教材作成を行い発表する。受講者間でディスカッションを通してのフィードバックを共有する。</p> <p>第11回 第11回 指導と評価、日々の授業と絶対評価、発表(3) 英語の日々の授業における絶対評価の方法を授業記録ビデオを視聴し学ぶ。日々の英語の授業における評価について指導と評価の一体を図るためのパフォーマンス評価について理解を深める。</p> <p>第12回 第12回 高等学校教育実習に向けて 絶対評価を取り入れた英語学習指導案作成(1) 教育実習における心構え・準備・1日の学校生活・公務の流れ・英語教員として大切なことを講義を通して学ぶ。模擬授業に向けた絶対評価を取り入れた英語学習指導案の作成の助言を行う。</p> <p>第13回 第13回 高等学校教育実習に向けて 絶対評価を取り入れた英語学習指導案作成(2) 各自が模擬授業で担当することになった教科書のレッスンにもとづいて、「英語科教育法II」で学んできた授業における各チャックについて絶対評価を取り入れた英語学習指導案の作成を行う。</p> <p>第14回 第14回 マイクロティーチング(1)(模擬授業) これまで「英語科教育法II」で学んだことを活かし英語の模擬授業を行う。模擬授業後は受講者間でディスカッションを通し模擬授業についてのフィードバックを共有する。</p> <p>第15回 第15回 マイクロティーチング(2)(模擬授業) これまで「英語科教育法II」で学んだことを活かし英語の模擬授業を行う。模擬授業後は受講者間でディスカッションを通し模擬授業についてのフィードバックを共有する。</p>
--	---

テキスト 米山朝二・杉山敏・多田茂『新版・英語教育実習ハンドブック』大修館書店
文部科学省(2010)『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』、高等学校英語教科書

参考文献 長勝彦(編)(1997)『英語教師の知恵袋 上巻・下巻』開隆堂
卯城祐司(編)(2011)『英語で英語を読む授業』研究社
H,David, Lebeau, C.(2008) Speaking of Speech: Basic Presentation Skills for Beginners. Machmillan language House、大井恭子(編)(2010)『パラグラフ・ライティング指導入門』大修館書、松沢伸二(2004)『英語教師のための新しい評価法』大修館書店
山本崇雄(2016)『なぜ教えない授業が学力を伸ばすのか』日経BP社
M. raymound. (2012). Bacis Grammar in Use. Cambridge University Press

評価方法 グループ発表 30%、学習指導案作成・模擬授業 40%、レポート 30%
授業時におけるグループ発表、模擬授業、レポートにより評価します。

その他 出席を重視します。授業ではグループ活動を行い調査及び発表活動も行います。
※1
※2

科目分類	教職科目	対象学年	3・4
授業科目	教育行政学	学期	前期授業
担当教員	清原正義	選択／必修	選択必修
科目コード	H061100	授業形態	講義
		単位数	2

授業の概要 教職課程を履修する学生に必要な我が国の教育行政に関する基礎的知識を教授する。教育行政の対象分野は学校教育、社会教育、生涯学習、文化、スポーツなど多くの分野にまたがるが、ここでは主に学校教育をテーマとする。

授業の内容

第1回 教育行政とは何か。
○教育行政の定義
○教育行政の対象

第2回 教育行政関係法規①。
○日本国憲法、教育基本法

第3回 教育行政関係法規②。
○学校教育法、教育公務員特例法、その他

第4回 学校の種類と目的①
○就学前教育
○義務教育諸学校

第5回 学校の種類と目的②
○高等教育、その他

第6回 学校の教職員
○校長、教頭、教諭、その他の教員
○学校事務職員、その他の職員

第7回 学級規模と教職員定数
○学級規模の標準
○教職員定数の根拠

第8回 教職員の任用と研修

第9回 教育課程の基準
○学習指導要領と教育内容
○学習指導要領の法的拘束性

第10回 教育評価
○指導要録、通信簿、内申書

第11回 教育行政の組織と制度
○中央・地方の教育行政
○教育委員会、学校評議員、PTA、自治会

第12回 教育財政制度
○義務教育費国庫負担制度
○地方交付税と教育費

第13回 子供の数の変化と学校
○少子化と児童生徒数の変化
○少子化対策と教育政策

第14回 学校と地域
○地域の中の教育・学習(学校教育、社会教育、生涯学習)
○学校の環境(学校建築、防災、安全、文化、環境)

第15回 まとめ
○教育行政と教育

テキスト 教科書は特に使用しない。資料を配付する。

参考文献	文部科学省「文部科学白書(平成28年版)」 「学校小六法」(協同出版)「教育小六法」(三省堂)
評価方法	期末試験(60%)、レポート(30%)、出席等(10%)
その他	※1 ※2

科目分類	教職科目	対象学年	3・4
授業科目	教育方法論	学期	前期集中
担当教員	非常勤講師 島田博司	選択/必修	必修
科目コード	H061120	授業形態	
		単位数	2

授業の概要

教育方法論では、教授学、学校教育学、授業研究、教室研究、カリキュラム研究、教師教育の研究などを取り扱う。その際、さまざまな領域で提起されている問題に学際的にアプローチする。具体的には、授業、学習、カリキュラム、教師などについて、教育過程において生起する実践的な問題に対して、教育心理学や教育社会学などの諸学問をベースに探求した結果だけでなく、教育現場における具体的な問題の解決を追求する実践的なやり方などについて学習する。

【到達目標】
教育方法の問題について、自分自身の体験に基づき、論理的・分析的・自己反省的に思考・表現することができる。

授業の内容

①評価活動
評価活動に必要なものはなにかを探る。

②カリキュラムとヒドゥンカリキュラム
教育の顕在的機能と潜在的機能について学ぶ。

③体験学習の意義と実際
体験学習の意義と実際について学ぶ。

④学びの構造
教育内容と教育方法について理解を深める。

⑤問答法の意義と実際
質問力と回答力をどう育成したらいいか理解を深める。

⑥聞く力の育成
人の話を聞く力をどう育成したらいいか理解を深める。

⑦グループ学習の意義と実際
グループ学習の意義と実際について学ぶ。

⑧学習集団における人間関係づくり
学習集団過程における人間関係づくりについて学ぶ。

⑨ピグマリオン効果
学習効果をあげる方法について学ぶ。

⑩学力とはなにか
学力とはなにかについて検討する。

⑪教育課程の編成原理と方法
教育課程の編成原理と方法について学ぶ。

⑫アクティブ・ラーニングの意義と方法
アクティブ・ラーニングの意義と方法について学ぶ。

⑬教授＝学習過程
学びを促進するのに必要な教授＝学習過程について学ぶ。

⑭学習指導の方法
生徒の能力と到達度に応じた学習指導とはなにかを考える。

⑮授業における情報機器の活用

テキスト 島田博司『大学授業の生態誌』玉川大学出版部。

参考文献 ①島田博司『私語への教育指導』玉川大学出版部。
②島田博司『メール私語の登場』玉川大学出版部。
③佐藤学『教育方法学』岩波書店。

	④島田博司『学びを共有する大学授業—ライフスキルの育成』玉川大学出版部。 ⑤島田博司『アクティブに学ぼう！』交友プランニングセンター 友月書房。
評価方法	平常点50%、レポート50%。
その他	※1 ※2

科目分類	教職科目	対象学年	3・4
授業科目	生徒指導論	学期	後期授業
担当教員	川中 淳子	選択／必修	選択必修
科目コード	H061130	授業形態	
		単位数	2

授業の概要	<p>【授業の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校、いじめ、発達障害など、教育現場において児童生徒への個別の支援が必要な事柄について知る。 ・カウンセリングに関する基礎知識を知り、基本的スキルを身に付ける。 ・教育の変遷について考察する。 ・教職に関する全ての学びを深める。 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達が抱える様々な困難を、具体的に説明できる。 ・教育の変遷について述べることができる。 ・教育の諸問題への、自分なりの対応を考えることができる。 ・グループでの話し合いに積極的に参加する。 <p>本授業はLTD(Learning through Discussion 話し合い学習法)を通して、</p>
-------	---

授業の内容	<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 LTD(Learning through Discussion 話し合い学習法)の説明</p> <p>第3回 LTDテーマ:生徒指導の目的と対象</p> <p>第4回 LTDテーマ:教師と生徒の関係</p> <p>第5回 LTDテーマ:開かれた学校について</p> <p>第6回 教職合宿準備</p> <p>第7回 教職合宿 体験活動</p> <p>第8回 教職合宿 公立学校教員からの講義</p> <p>第9回 教職合宿 模擬授業実施</p> <p>第10回 LTDテーマ:野外文化教育の意義</p> <p>第11回 LTDテーマ:いじめと暴力</p> <p>第12回 LTDテーマ:文化・社会の中の教育</p> <p>第13回 LTDテーマ:個性の教育</p> <p>第14回 LTDテーマ:教育における人間関係</p> <p>第15回 まとめ</p>
-------	--

テキスト	・安永 悟「実践・LTD話し合い学習法」ナカニシヤ出版(予定)
------	---------------------------------

参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校指導要領 ・高等学校の教科書(英語、公民) ・「教育実習生のための学習指導案作成教本 社会地歴公民科or英語科」教育実習を考える会編 蒼丘書林
------	--

評価方法	<p>毎回出席を。出席が70パーセント以下の者には成績評価を与えない。</p> <p>毎回の授業での取り組み50% 予習ノート50%</p>
------	--

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、必ず予習をすること。 ・一泊二日で教職合宿を予定している。必ず参加すること。 <p>※1 ※2</p>
-----	--

科目分類	教職科目	対象学年	3・4
授業科目	進路指導論	学期	前期集中
担当教員	非常勤講師 坂柳恒夫(Tsuneo Sakayanagi)	選択／必修	必修
科目コード	H061140	授業形態	講義
		単位数	2

授業の概要

現代の進路指導は、単なる進学・就職への指導ではなく、その本質は人間の生き方や人生設計の教育である。本授業の概要は、次の通りである。

第1週から第3週までは、進路指導の概念および発展の歴史について説明し、第4週より進路指導に関する主要理論(内容理論・過程理論)を紹介する。第7週から第14週までは、個人理解、進路情報、啓発的経験、キャリア・カウンセリング、追指導など進路指導の諸活動を取り上げ、それぞれの意義と方法・技術について述べる。最終週では、これからの進路指導における課題を指摘し、今後のあり方を示唆したい。なお、講義の他に、各種の進路指導用検査、教育ゲームなどの演習も取り入れ、できる限り体験的な学習ができるように配慮していく予定である。

授業の内容

第1回 進路指導とは：進路指導の概念や意義、進路指導の基本的性 下記の参考文献を格、進路指導の活動領域 必要に応じ、随時使用する。

第2回 進路指導の成立と発展：進路指導の誕生とその社会的・教育的条件、欧米・日本の進路指導の歴史

第3回 進路指導の理論的展開：アメリカにおける進路指導の理論的展開、キャリア発達の現代的概念、理論の概観

第4回 進路選択・発達に関する内容理論：特性－因子理論、早期決定論、精神分析的理論、類型学的理論、職業選択モデル

第5回 進路選択・発達に関する過程理論：ギンズバーグの発達理論、スーパーの発達理論

第6回 キャリア成熟の理論と測定法：キャリア成熟の概念とモデル、キャリア成熟の測定方法と評価

第7回 個人理解の意義と方法：生徒理解と自己理解、個人理解の 内容領域、個人資料の収集方法、自己確認の指導・援助

第8回 進路情報の意義と収集整備・活用方法：進路情報の意味・役割、進路情報の内容・種類、進路情報収集の基本原則、整備・活用の方法

第9回 啓発的経験の意義と方法：進路指導における啓発的経験の意義・役割、キャリア体験のあり方

第10回 キャリア・カウンセリングの基礎：キャリア・カウンセリングの概念と基本的性格、キャリア・カウンセリング担当者に求められる資質

第11回 キャリア・カウンセリングの理論(1)：キャリア・カウンセリング理論の系譜と展開、キャリア・カウンセリング理論の類型

第12回 キャリア・カウンセリングの理論(2)：キャリア・カウンセリングの主要理論とその技法

第13回 キャリア・カウンセリングの進め方：キャリア・カウンセリングの展開方法、キャリア・カウンセリングの計画・実施・評価における留意点

第14回 追指導の意義と方法：適応援助としての追指導、追指導の具体的方法

第15回 進路指導における課題と展望：社会の変化と進路指導、これからの進路指導の課題と展望、創造的人生の支援

テキスト

プリント配布

参考文献

①吉田辰雄(編) 最新生徒指導・進路指導論 図書文化
 ②仙崎武・他(編) 図説キャリア教育 雇用問題研究会
 ③宮城まり子 キャリアカウンセリング 駿河台出版
 ④日本教育カウンセラー協会(編) 新版・教育カウンセラー標準テキスト 上級編 図書文化
 ⑤仙崎武(編) キャリア教育読本 教育開発研究所
 ⑥日本キャリア教育学会(編) キャリア・カウンセリングハンドブック 中部日本教育文化会

評価方法

受け身ではなく、自分なりの問題意識をもって、積極的かつ真面目な態度で受講することを期待している。成績評価は、①出席状況、②授業態度、③試験・提出物(レポートの内容等)などを総合化して評価する。

その他

※1
 ※2

科目分類	教職科目	対象学年	4
授業科目	教職実践演習	学期	後期授業
担当教員	別枝行夫 三浦邦彦 川中淳子 ケイン・エレナ・アン	選択／必修	選択
科目コード	H061180	授業形態	演習
		単位数	2

授業の概要
 本授業の目標は、教員として必要な能力(①使命感、責任感、②社会性、対人関係能力、③児童生徒理解、学級経営能力、④教科等の指導力)が教職に就くのにつながる程度に身に付いているかを確認することである。
 本学が有する科目を結集するとともに、学校現場の視点を取り入れ、また教育委員会が持つ力をまとめ、その内容を組み立て、必要な知識技能を習得できるものとする。

【到達目標】

教員として必要な知識技能等を習得でき、教員にふさわしい能力を身につけることができる。

授業の内容

- 第1回 ガイダンス(この授業の目的、内容等に関する説明)、国際化と学校(増える外国人子女、小学校での外国語学習、日本人学校等)の解説。
- 第2回 国際化と学校(演習1) 国際化しつつある学校における自らの役割と責任を考えさせる。
- 第3回 国際化と学校(演習2) 国際化しつつある学校における自らの役割と責任を考えさせる。
- 第4回 少子高齢化と学校(学校の統廃合、学校校舎の利用の様子等の解説)
- 第5回 少子高齢化と学校(演習1) 少子高齢化が進む学校における自らの役割と責任を考えさせる。
- 第6回 少子高齢化と学校(演習1) 少子高齢化が進む学校における自らの役割と責任を考えさせる。
- 第7回 模擬授業1(学校見学)(受講者を公民・英語に分割し、各担当の模擬授業を見学し、意見を述べ合う。)
- 第8回 模擬授業2(個人発表①)(受講者を公民・英語に分割。)(非常勤講師)
- 第9回 模擬授業3(個人発表②)(受講者を公民・英語に分割。)(非常勤講師)
- 第10回 保護者との関係を考える(最近の保護者の傾向等を知る。)(非常勤講師)
- 第11回 生徒の在り方を考える(最近の生徒の傾向等を知る。)(非常勤講師)
- 第12回 特別支援学校の教育(学校見学)(特別支援学校での生徒の状況から一人一人の教育的ニーズを考えさせる。)
- 第13回 教育委員会が求める教員像(教育委員会)(県教委担当者をゲストスピーカーとする。)(非常勤講師)
- 第14回 社会人としての教員の役割(グループ討論)(非常勤講師)
- 第15回 まとめ

テキスト 必要に応じて指示する。

参考文献 必要に応じて指示する。

評価方法 3分の1以上の欠席のある者(5回以上の欠席)は成績評価の対象とはしない。授業への取組み、各演習等を踏まえ、必要な資質・能力が身につけているかを総合的に判断し評価する。各回10点満点で評価し、これを合計し、100点満点に換算する。

その他 履修履歴を確認しつつ、学内の教職部会(各教職・教科担当教員で構成。)での議論を行い、受講者の履修を行う。各教員は必要なコメント等を行い、4年次後期の学生として必要な知識技能を確認する。
 ※1
 ※2

科目分類	教職科目	対象学年	4
授業科目	教育実習指導	学期	前期授業
担当教員	川中 淳子	選択／必修	選択必修
科目コード	H061160	授業形態	
		単位数	1

授業の概要
【授業の目的】
 高等学校教育実習に関する支援を行う。まず、実習校での教育実習に先立ち、意識と自覚を持って積極的に実習に参加できるように、知的な準備から教育実習生の心得に至るまで基礎的準備をする。教育実習後は、その体験を振り返る。

【到達目標】

- ・指導案作成や模擬授業ができる。
- ・教育に携わる仕事に必要なとされるものを理解できる。
- ・教育実習での学びを、これからの生活でいかそうとすることができる。

授業の内容

初期(1回目から3回目)
 ・教育実習への心構えや教育実習に関する諸注意について具体的に受講生に伝える。
 ・教育実習のための準備をする。

中期(4回目頃～全受講生の教育実習が終わる頃まで)
 ・模擬授業などを通して、教育実習に向けての力を養成する。

後期(全受講生教育実習終了後～15回目)
 ・

- 第1回 教育実習への心構え
- 第2回 教育実習に関する諸注意
- 第3回 高等学校の様子や授業について
- 第4回 指導案作成 公民科を中心に
- 第5回 指導案作成 英語科を中心に
- 第6回 受講生による模擬授業 公民科
- 第7回 受講生による模擬需要 公民科
- 第8回 受講生による模擬授業 英語科
- 第9回 受講生による模擬授業 英語科
- 第10回 教育実習の振り返り
- 第11回 教育実習での経験の共有
- 第12回 教育実習の成果を今後にかすために
- 第13回 まとめ的小冊子 原稿作成
- 第14回 まとめ的小冊子 製本
- 第15回 教育実習のまとめと反省

テキスト テキストは必ず準備するように。

- ・教育実習を考える会編 『教育実習生のための学習指導案作成教本 社会 地歴公民科』蒼丘書房(公民科の受講生)
- ・教育実習を考える会編 『教育実習生のための学習指導案作成教本 英語 科』蒼丘書房(英語科の受講生)
- ・その他に教育実習支援のための書籍を1冊指定する予定。

参考文献	文部省告示『高等学校学習指導要領』(ぎょうせい) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』(実務出版株式会社) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総則編』(東山書房) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』(東山書房)
評価方法	1)教育実習開始までに教育実習への準備ができたかどうか、2)教育実習終了後には得られた知見をその後の進路で活かそうとの姿勢があるかどうかについて評価をする。 レポート50%、模擬授業と授業態度50%。
その他	・無断欠席や遅刻・早退は認めない。 ・就職活動と本科目の時間が重ならないように調整すること。 ・実習前に無断欠席ある場合や、実習高校に迷惑をかける恐れがある場合には、教育実習実施可能かどうか個別に検討する。 ・本科目は、「高等学校教育実習」履修者を対象としたものである。 ※1 ※2

科目分類	教職科目	対象学年	4
授業科目	高等学校教育実習	学期	前期集中
担当教員	川中 淳子	選択/必修	選択必修
科目コード	H061170	授業形態	
		単位数	2
授業の概要	<p>高等学校での指導のもとに、二週間の教育実習を行う。</p> <p>【授業の目的】 ○教師・生徒とのふれあいの中で、学習指導・生活指導・生徒理解の実際を体得する。 ○教職に対する自覚と能力を自己評価する。 ○教師の仕事への意欲を深める。</p> <p>【到達目標】 実習校での指導を理解し、二週間全力を尽くすこと。</p>		
授業の内容	<p>実習校の方針により進められる。具体的に以下のような内容が考えられる。</p> <p>実習高の教育理念、指導計画、校内組織等の学習 実習校のオリエンテーション 授業見学・授業見学 指導計画と学習指導案の作成 教材研究と準備 授業実習 生徒会活動への参加 学級経営への参加 クラブ活動への参加 その他教師の仕事全般への理解 教育実習の自己評価 社会における学校教育の意義と実際を知る</p>		
テキスト	<p>・教育実習を考える会編 『教育実習生のための学習指導案作成教本 社会 地歴公民科』蒼丘書房(公民科の受講生) ・教育実習を考える会編 『教育実習生のための学習指導案作成教本 英語 科』蒼丘書房(英語科の受講生)</p>		
参考文献	<p>『文部省告示 高等学校学習指導要領』 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総則編』 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』</p>		
評価方法	高等学校での教育実習の取り組み(100%)		
その他	<p>・高等学校の方針に沿って実習を行うこと。 ・無断欠席・遅刻をしてはならない。 ・本科目を履修する者は、「教育実習指導」を必ず履修すること。 ・高等学校教育実習開始前に、「教育実習指導」の欠席回数2回を超える場合は、教育実習実施可能かどうか個別に検討する。 ・実習期間中に就職活動等で実習を休むと、実習高校に多大な迷惑をかけることになるので就職活動を入れてはならない。 ・実習高校に失礼なことがないように、マナーや礼儀を身につけるように。 ※1 ※2</p>		